



Source: CQG, Inc. © 2006 All rights reserved worldwide.

- 13日**
- 14日**
- 15日**
- 16日**
- 17日**

ドル円は本邦実需勢からの買いで113.715円まで上げたが、日経平均株価や日経平均先物の大幅安が嫌気され113.247円まで下落した。その後、日経平均先物が一転上昇すると113.60円台まで持ち直した。

ドル円は日経平均先物の上昇を支えに113.911円まで上げたが、日経平均先物が一転下落すると売りが優位に。米長期金利の低下も重しとなり113.31円まで値を下げた。

ドル円は日経平均株価や日経平均先物が大幅に下げたことでリスク回避目的の売りに押された。米長期金利の低下幅拡大も売りを誘い112.485円まで下げ足を速めた。

米下院で共和党の税制改革法案が可決されたことなどを受けてドル円は113.335円まで上げる場面もあったが、総じて113.00円を挟んで方向感が定まらなかった。

WSJ紙が「モラー特別検察官がトランプ選挙陣営に召喚状を出した」と報じたことをきっかけにドル円は売りが先行。米長期金利の低下幅拡大や日経平均先物の下落も重しとなり、111.945円と10月16日以来の安値を付けた。

総括

先週のドル円は上値の重い展開となった。週明け13日は本邦実需勢からの買いに支えられて一時113.715円まで上昇したものの、その後は株安などを背景に113.247円まで下押し場面も見られるなど、113円台半ばを挟んだ方向感の乏しい動き。翌14日は株高を支えに一時113.911円まで値を上げたが、買い一巡後は株価の失速や米長期金利の低下を背景に113.31円まで失速した。15日には目先の下値目処として意識されていた10月31日安値の112.958円を下抜けたことで売りが加速。米税制改革への不透明感などを手掛かりに米国株安が進むなか、一時112.485円まで値を下げた。その後は急ピッチで値を下げた反動から買い戻しも入り、16日には米下院で共和党の税制改革法案が可決されたことなどを受けて113.335円まで反発したものの、週末17日には再び売りが優勢に。WSJ紙が「モラー特別検察官がトランプ選挙陣営に召喚状を出した」と報じたことをきっかけに売りが強まったほか、米長期金利の低下も重しとなり、一時111.945円と10月16日以来の安値を更新した。

先週の注目された経済指標結果

日付	時刻	曜	通貨	指標名	比	月	前回値	改定値	予想値	結果
14日	18:30	火	GBP	CPI	前月比	10月	0.3%		0.2%	0.1%
14日	19:00	火	EUR	ドラギECB総裁発言	*	*	*	*	*	*
14日	19:00	火	USD	イエレンFRB議長発言	*	*	*	*	*	*
15日	22:30	水	USD	CPI	前月比	10月	0.5%		0.1%	0.1%
15日	22:30	水	USD	小売売上高	前月比	10月	1.6%	1.9%	0.0%	0.2%
16日	22:30	木	USD	フリー指数	*	11月	27.9		24.6	22.7
17日	22:30	金	USD	住宅着工件数	年率換算	10月	112.7万件	113.5万件	119.0万件	129.0万件

一言コメント・・・米CPIや米小売売上高など重要指標の発表がありました。総じて強弱まちまちな結果となったため、相場への影響は限定的でした。

先週の注目された要人発言

- 13日9:12 ハーカー米フィラデルフィア連銀総裁「低インフレを懸念」「バランスシートの縮小、退屈で自動操縦に」
- 13日19:55 ホールデン英中銀金融政策委員会(MPC)委員「英CPIは今後数年間は目標を上回るだろう」
- 14日2:51 黒田東彦日銀総裁「2%の物価安定目標の実現にはなお距離がある」
- 14日14:25 トランプ米大統領「巨額の貿易赤字は急速に減少する必要」
- 14日19:29 イエレン米連邦準備理事会(FRB)議長「全てのフォワードガイダンスは経済見通しを条件とすべき」
- 14日22:10 ブラード米セントルイス連銀総裁「現在の政策金利は当面適正」
- 15日2:43 カンリフ・イングランド銀行(英中銀、BOE)副総裁「英物価圧力は引き続き低い」
- 15日3:21 ポスティック米アトランタ連銀総裁「今後2年ほどは段階的な利上げが適切」
- 15日17:01 エバンズ米シカゴ連銀総裁「我々は目標を下回るインフレ期待に直面している」
- 16日6:10 ローゼン格林米ボストン連銀総裁「経済は穏やかな利上げ継続を正当化している」
- 16日18:46 メルシュ欧州中央銀行(ECB)専務理事「ECBは金融緩和が依然として必要」「必要ならECBは躊躇せず行動する」
- 17日4:38 メスター米クリーブランド連銀総裁「インフレ率は来年の4-6月期以降に2%へ到達するだろう」
- 17日9:12 ウィリアムズ米サンフランシスコ連銀総裁「2018年末までの4回の利上げが妥当な推測」
- 17日17:28 エルドアン・トルコ大統領「中銀は間違った軌道にある」「金利が再び上がるにつれてインフレは二桁に向かうだろう」
- 17日17:36 ドラギ欧州中央銀行(ECB)総裁「ユーロ圏は堅調な景気拡大のさなかにある」
- 17日22:13 バイトマン独連銀総裁「ECBの緩和政策は依然として適切」

一言コメント・・・主要中銀の当局者から金融政策についての発言がありました。市場の反応は限定的でした。ただ、エルドアン・トルコ大統領の発言後にはトルコリラ売りが進む場面もありました。

今週の経済指標

日付	時刻	曜	通貨	指標名	比	月	前回値	改定値	予想値
20日	24:00	月	USD	景気先行指標総合指数	前月比	10月	-0.2%		0.6%
21日	24:00	火	USD	中古住宅販売件数	年率換算件数	10月	539万件		540万件
22日	08:00	水	USD	イエレンFRB議長発言	*	*	*	*	*
22日	22:30	水	USD	耐久財受注	前月比	10月	2.2%	2.0%	0.4%
22日	28:00	水	USD	米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨	*	*	*	*	*
23日	21:30	木	EUR	欧州中央銀行(ECB)理事会議事要旨	*	*	*	*	*
23日	*	木	ZAR	南アフリカ準備銀行(中央銀行)政策金利	*	*	6.75%		6.75%

今週の注目は・・・欧米議事要旨

GIweekly今週のマーケットポイント [限定版]は

『ひまわりFX WEB』にログイン後の
「マイページ」にてご覧いただけます。

- 今週のドル円相場見通し
- 今週のGI24コメンテーターの一言
 - 荻野金男
 - 和田仁志
- 今週の注目経済指標
- 今週のテクニカルポイント
- 先週のコメント
 - 今井雅人
 - エマージングウオッチ

情報提供元：株式会社DZHフィナンシャルリサーチ

株式会社DZHフィナンシャルリサーチより提供している情報（以下「情報」といいます。）は、情報提供を目的とするものであり、特定通貨の売買や、投資判断ならびに外国為替証拠金取引その他金融商品の投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はあくまでお客様ご自身の判断と責任において行ってください。また、予告なしに内容を変更することがありますのでご注意ください。商用目的で情報の内容を第三者へ提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容によって生じた如何なる損害についても、（株）DZHフィナンシャルリサーチは一切の責任を負いません。